

平成２７年度

ファカルティ・ディベロップメント
推進委員会活動報告書

平成２８年３月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

はじめに

兵庫教育大学
ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員長
吉水 裕也

F D活動が本学大学経営の重点事項に位置づけられてから3年が経ちました。この間、兵庫教育大学におけるF Dの定義、アクティブ・ラーニング研究会の実施、「ベストティーチャー」でも「賞」でもないベストクラスの選定などに取り組んできました。これらの取り組みが前進したのは、本学のF Dの定義にあるように、教職協働で、かつ学生の参画があったからこそと確信しています。

今年度も、F D活動の基本は既にある優れた取り組みを掘り起こす（F Dミシュラン）という考えのもと、授業評価の実施と改善、ベストクラスの選定、アクティブ・ラーニング研究会の実施、授業公開という四本柱を、学生・教職員F D活動交流会が支えるという構図で展開してきました。

まず、「授業は誰のものか」という問いを念頭に、優れた授業とは何かを追い求め、初めてベストクラスを選定できたことは、今年度の大きな成果です。学部、大学院をあわせて12の授業科目が平成26年度のベストクラスに選定されました。教員養成系大学である本学で優れた授業とは何かを考えることは、本学全体の教育に対する姿勢を問われることと同等ではないかという認識が芽生え、大変な重圧がありました。しかし、学ぶことと共に教えることをも専門とする現職教員の大学院生、これから教壇に立とうとしている学部生や教職経験を持たない大学院生と教職員が、授業について真剣に語り合う場である学生・教職員F D活動交流会で議論できたことは、ベストクラスという概念構築や選定に大きな役割を果たしたと考えています。この議論の内容は、本学Webサイトで学内限定公開されています。ベストクラスという概念の構築、選定手順作成、選定理由書の吟味などの過程を学内で共有すること自体が、本学の教育の姿勢を示すことになり、それを教職員や学生が閲覧できる仕組みを作っておくことも公正な手続きの一つと位置づけたからです。また、ベストクラス選定のための重要な資料として、授業評価の自由記述を用いていることから、授業評価用のマークシートを改善し、自由記述が大幅に増加しました。

F D推進活動では、多忙な日々の中で地道に授業改善に取り組まれている教員の方々の活動を支援し、またその貴重な取り組みを掘り起こしていくことが重要だと考えています。授業改善に取り組まれている教員の方々への活動支援の一環として、今年度はベストクラスに選定された授業の一つをアクティブ・ラーニング研究会として授業公開していただき、授業研究を行ったところ、多くの参加がありました。今回も受講生、さらに昨年度の受講生が授業後の検討会に出席して意見を述べるができる形式をとりました。小・中・高校等で行われている授業研究とは異なる、大学における授業研究の一つの形を提案できたのではないかと考えています。

このようなF D活動が行えたのも皆様のご理解とご協力のおかげと感謝申し上げます。

平成27年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書

【目次】

はじめに（FD推進委員会委員長）

I	平成27年度FD活動の概要	1
	1. 本学のFD活動の概要	2
	2. 平成27年度のFDに関する取組実績	
	－「FD活動の活性化」について－	5
II	1年間の活動実績	7
	1. 「ベストクラス」の選定、公表	8
	2. 第3回アクティブ・ラーニング研究会の実施	11
	3. 平成27年度「学生による授業評価」実施結果	18
	4. 平成27年度 他大学等のFD研究会等参加状況一覧	20
	5. 平成27年度 教職大学院授業改善・FD委員会 活動実績一覧	21
III	資料	22
	1. 国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程	23
	2. 授業公開の実施に関する申合せ	25
	3. 本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図	26
	4. ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿(平成27年度)	27

I 平成 27 年度 F D 活動の概要

I 平成27年度FD活動の概要

1. 本学のFD活動の概要

●兵庫教育大学のFD活動

本学では「教職協働」「学生参画」を基本にFDを進めています。「授業は誰のものか」という問いを学生と教職員が共有・議論し、今年度初めて「ベストティーチャー」でも「賞」でもない、「ベストクラス」を選定することにしました。

現職教員が大学院生として多く学ぶ大学。これは、全国にある教員養成系大学の中でも、兵庫教育大学が持つ大きな特徴でしょう。現職教員は、教えることを仕事とし、かつ大学院在籍中は学ぶことをも仕事とする教えと学びの専門家です。もちろんストレート院生も、学部生も、多くは教職を目指して学んでいます。そのような本学におけるFDはどうあるべきか。FD推進委員会では、それを正面から考えて、本学のFDを次のように定義することにしました。

「本学におけるFDとは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。」

本学のFDの定義には「教職協働」と「学生参画」という二つのポイントが含まれています。このうち「教職協働」は、FDなどを含む高等教育に関する研究者が、今後のFDの方向性として重視するものと一致しています。一方「学生参画」は、先に述べたように、教員養成系大学としての本学の特徴をよく表しています。この考え方は、私たちの中に「授業は誰のものか」という問いが現れたことと大きく関連しています。FDは教育の質保証に関わる取り組みですから、具体的には授業やカリキュラムの改善が中核になります。その時に、この問いを念頭に置くことが重要だと考えたのです。「学生参画」を具現化するためには、学生と教職員がFDについて公式に議論する場が必要になります。そこで「学生・教職員FD活動交流会」という組織をつくることにしました。他大学にはない独自性の高い組織です。後述するベストクラスは、この組織における議論の結果生まれたものです。

本学ではこの定義に則り、四つの活動を柱にしてFDを行っています。それは①学生による授業評価と評価方法の改善、②ベストクラスの選定・公表、③アクティブ・ラーニング研究会の実施、④授業公開です。

その中でも、ベストクラスは他の大学には見られない兵庫教育大学独自の考え方です。授業は教員の努力だけではよいものになりません。授業は、教員のみならず学生の高い参加意識があって初めて良くなるのです。この考えをもとに、ベストティーチャーという概念を疑うことにしました。では、優れた授業とはどのような授業なのか。そして、授業は誰のものなのか。それを学生と教職員が一緒になって考えています。ここで、「考えています」と現在進行形にしたのには意味があります。ベストクラスは、優れた授業のモデルや規準を決めて、それに当てはめて選ぶものではありません。授業にはそれぞれ異なった意図やねらいがあるはずです。それを一つの規準で評価することは授業の画一化を招くことにもなりかねません。優れた授業とはどのようなものかという問いを失った瞬間に、優れた授業の多様性が失われる危険性があるのです。そこで賞という概念がベストクラスになじまないのではないかという考えに至ったのです。これが「ベストティーチャー」でも「賞」でもない、「ベストクラス」という概念です。このような考え方で、今年度は平成26年度のベストクラスを選定し、公表しました。

本学におけるFDの定義について

兵庫教育大学におけるFDとは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

【定義のポイント】

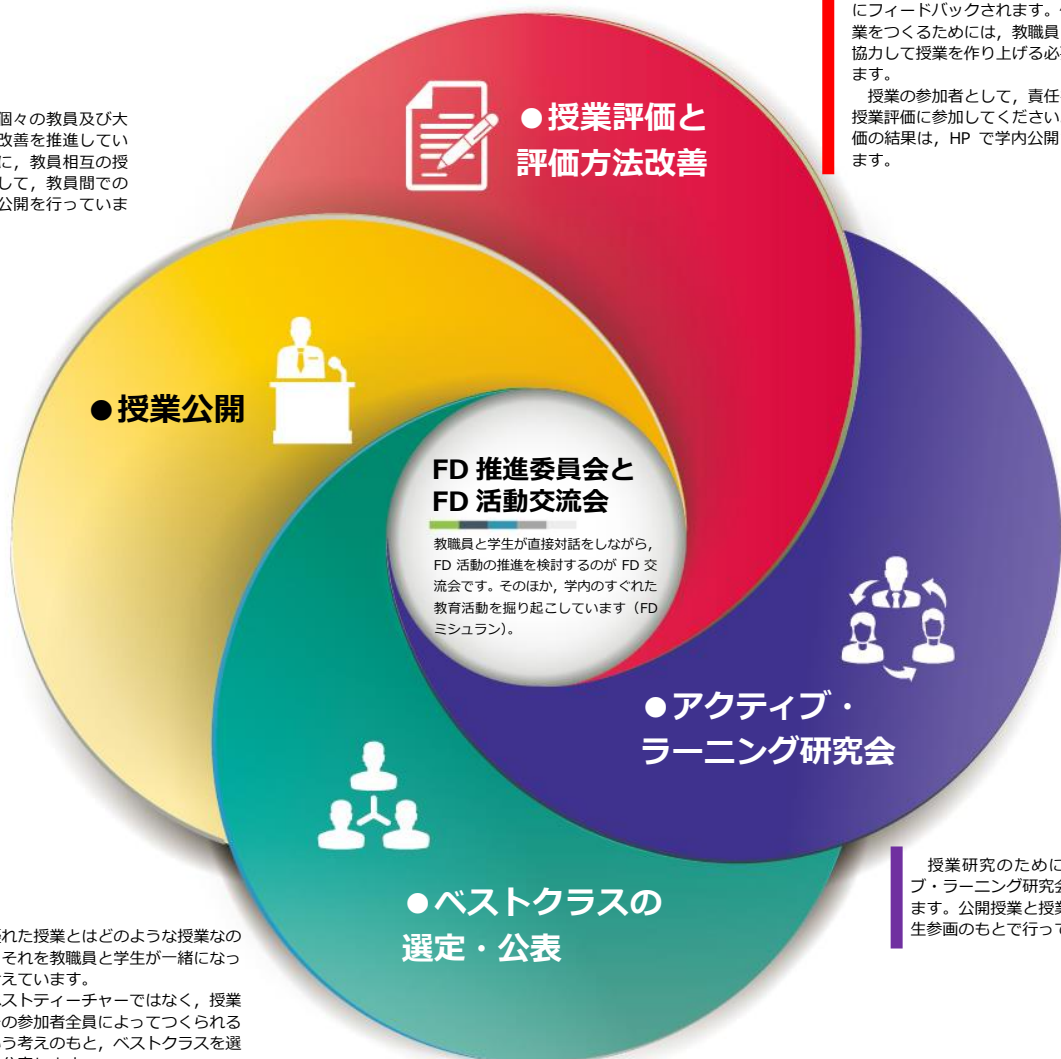
- (1) 本学のミッション及びビジョンを実現すること (What for)
- (2) 全学で日常的に行われる全ての教育改善活動や学修支援活動をFD活動と認識すること (What)
- (3) 教員と事務職員が協働し、学生の参画を推進すること (Who)
- (4) 教育の質保証及び教育力向上をめざすあらゆる取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、更なる改善・充実を組織的に図ること (How)

兵庫教育大学における FD 推進活動への取り組み

FD とは、ファカルティ・ディベロップメントの略で、教育の質保証をめざす取り組みのことです。

本学における FD とは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

本学では、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に、教員相互の授業研究の場として、教員間での日常的な授業公開を行っています。



2. 平成27年度のFDに関する取組実績 －「FD活動の活性化」について－

- ① 平成27年度のファカルティ・ディベロップメント推進委員会に係る中期計画及び年度計画は次のとおりである。

中期計画 ²³	全学的なファカルティ・ディベロップメント活動や教育活動に対する評価結果を、教育の質の向上や改善に結びつけるための組織的取組を行う。
年度計画 ²⁶	「本学におけるFDの定義」に基づいた活動成果の蓄積及び全学的な共有を通して、組織としての教育の質の向上や授業改善に継続的に取り組むとともに、これまでの取組を総括する。

- ② 企画運営会議における当面の重点事項として掲げられた事項は次のとおりである。

●アクティブ・ラーニングの推進

- ・新任教職員研修、全学教職員会議、新入生オリエンテーションにおいて、本学のFD活動の取組状況を周知する。
- ・ベストクラスに選定された後期授業科目の公開授業をアクティブ・ラーニング研究会として開催する。

●ベストクラスの運用

- ・学生・教職員FD活動交流会で選定作業を実施する。（前年度授業評価結果に基づく絞り込み、選定候補授業担当者等へのインタビューの実施、選定授業科目の原案作成）
- ・FD推進委員会で検討・決定を行う。
- ・本学Webサイト等での選定結果を公表する。

●FD研究の成果発信

- ・FD活動報告書の内容を見直し、報告書を発行する。
- ・「ベストクラス」選定にかかる経緯・検討過程・結果等を内外に発信する。
（広報誌「教育子午線」、Webサイト等）
- ・関西地区FD連絡協議会「FD活動報告会2016」に向けての発表準備を行う。
【発表予定時期：2016年5月中旬】

③平成27年度の主な活動一覧

日 付	事 項
平成27年 4月30日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第1回）
平成27年 5月23日	関西地区FD連絡協議会第8回総会出席
平成27年 5月20日	第1回学生・教職員FD活動交流会（ベストクラス選定作業）
平成27年 9月17日	第2回学生・教職員FD活動交流会（ベストクラス候補科目を選定）
平成27年 9月30日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第2回）
平成27年 7月 1日 ～前期科目終了日	前期「学生による授業評価」の実施
平成27年10月23日	平成26年度授業科目における「ベストクラス」を公表（大学Webサイト）
平成27年11月25日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第3回）
平成27年12月 7日	第3回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会 （合同開催：第3回学生・教職員FD活動交流会）
平成28年 1月27日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第4回）
平成28年 1月 8日 ～後期科目終了日	後期「学生による授業評価」の実施
平成28年 2月16日	大学広報誌「教育子午線」Vol. 40 教育最前線に記事を掲載
平成28年 2月23日	第4回学生・教職員FD活動交流会
平成28年 3月16日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第5回）

Ⅱ 1 年間の活動実績

Ⅱ 1年間の活動実績

1. 「ベストクラス」の選定、公表

●ベストクラス選定までの道のり

優れた授業は、教員だけではなく参加する全ての構成員の高い意識があって初めて成立する。そして、優れた授業にも多様性がある。平成25年度からベストクラスという概念の構築に向けて取り組む中で、これら二つのことが整理されてきました。

2年がかりで検討してきたものを、今回初めてかたちにすることになります。本学のFDの定義に則って、学生・教職員FD活動交流会（教職協働、学生参画）が選定作業に当たりました。その結果、12の授業科目を平成26年度ベストクラスに選定しています。

選定に当たって、学生による授業評価の自由記述を参考にしています。自由記述のうち肯定的で具体的な記述を吟味し、候補を選びました。候補になった授業の担当教員と受講生にインタビューして、授業のねらいの共有度や授業での工夫点等を伺い、それに基づいて選定理由書を作成しました。選定理由書の書きぶりはおおの異なっています。それは前述の通り、あらかじめ規準を設定していないからです。なお、学生・教職員FD活動交流会での議論の記録は、全て文字にして本学ホームページに学内限定で公開しています。

ベストクラスは、優れた授業科目の共有を目的としています。それぞれの授業科目の持ち味などを共有していただければ幸いです。



ベストクラス候補科目の選出作業の様子



授業担当教員へのインタビューの様子

ベストクラスの選定について

1. ベストクラス選定の目的

ベストクラスは、本学の教育の質の向上のために、よい授業を教職員と学生が共有することを目的に選定されるものである。

2. 選定手続き

①選定は、前年度授業評価結果を参考にし、学生・教職員 F D 活動交流会での検討に基づいて、F D 推進委員会において行われる。

②授業評価の高評価授業科目を対象とし、原則として評価項目の平均値が 3.5 以上のものとする。ただし、選考基準平均値は、評価結果を考慮して設定できるものとする。

③高評価自由記述を検討して、よい授業を 10 程度に絞り込む。その際、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れる。

- ・学校教育学部 81 人以上，80～31 人，30 人以下
- 修士課程 31 人以上，30 人以下
- 専門職学位課程 共通基礎科目，専門科目
- ・講義，演習，実験など

④候補とされた授業の担当教員と受講者（授業担当教員の推薦による）に学生・教職員 F D 活動交流会がインタビューを行い、検討資料とする。

- ・授業者に対しては、授業の意図、当該授業での授業意図の共有度、学生の参画度、当該授業の良さと課題など
- ・受講者に対しては、うけとった授業の意図、参画度、知的刺激、知識の創造など

3. 選定された授業科目の公表方法等

①ベストクラスとして冊子、本学 W e b サイトで紹介する。

内容は

- ・授業名（履修年次，科目区分），開講時期（時限），教室環境，受講者数など
- ・選定理由
- ・授業者の意図と授業の振り返り，授業での工夫点，今後に向けた改善点
- ・受講者の参画度インタビュー，この授業のオススメポイント

②アクティブ・ラーニング研究会での公開授業の候補とする。

以上

ベストクラス選定結果一覧(Ｈ２６年度開講科目)

H27.9.30 FD推進委員会

課程	授業科目名	履修 年次	科目区分	受講者数 (人)	教室	開講時期
学部	社会の中の言語文化	1	教養科目群 社会課題探究	124	共通講義棟 108	前期 火4
	美術科教育法Ⅰ	3	専修専門科目群 専門教育(芸術系)	9	芸術棟 308	〃 集中
	生徒指導論(進路指導を含む。)	3	教職キャリア科目群 教職支援	171	共通講義棟 108	後期 月2
	社会科教育法Ⅲ	2,3	専修専門科目群 専門教育(社会系)	31	教育・言語・社会棟 718	〃 火5
	体育・スポーツ文化論Ⅱ	4	専修専門科目群 専門教育(生活・健康系)	5	体育棟 202	〃 水2
	社会科教育法Ⅳ	2,3	専修専門科目群 専門教育(社会系)	25	共通講義棟 104	〃 木1
	視覚生理・病理(昼間クラス)	1	専門科目 特別支援教育専攻／専門分野(障害科学コース)	57	共通講義棟 102	前期 水1
	投映法演習(昼間・夜間クラス)	1	専門科目 人間発達教育専攻／専門分野(臨床心理学コース)	41	神戸HLC 講義室4・5	後期 集中
(専門職学位課程)	英語教育コミュニケーション論(昼間クラス)	1	専門科目 教育内容・方法開発専攻／文化表現系教育コース／ 教科教育分野(言語系教育分野)	5	教育・言語・社会棟 126	〃 木4
	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際A (昼間クラス)	1	共通基礎科目	43	共通講義棟 304	前期 月2
	教職員職能開発と研修プログラムの開発(昼間クラス)	1	専門科目(学校経営コース)	21	共通講義棟 305	〃 月3
	開かれた学校づくりの事例と実践演習(昼間クラス)	2	専門科目(学校経営コース)	16	共通講義棟 307	〃 火2

2. 第3回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会の実施

12月7日（月）、教育子午線ホールにおいて、FD推進委員会主催による第3回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会を開催し、約50人が参加しました。

このたびの研究会は、本学学生・教職員を対象として、平成26年度ベストクラスに選定された授業の1つを公開することによって、授業改善のアイデアや手法等の情報を共有し、本学における教員相互の「授業研究」の場として、個々の教員、及び、大学全体の授業改善の推進を目的に、公開授業、及び、授業研究会の2部制で実施しました。

まず、平成26年度授業科目ベストクラスの1つである「生徒指導論（進路指導を含む。）」（学部3年次開講、担当教員新井肇教授、履修者173名）が公開されました。大規模な講義形式の授業の中で、受講生一人ひとりが活発に思考できる仕掛けが用意され、深い学びへと繋がっており、まさに「アクティブ・ラーニング」が展開されました。

公開授業終了後、引き続き実施した授業研究会には、受講生が数名出席し、授業者の意図や手法がどのように共有されていたのかなど、生の意見を聞くことができ、その後の全体討論では活発な意見交換が行われました。

参加者からは「大人数の授業、動きに制限のある会場でも『学び合い』が可能であることに驚きました」、「アクティブ・ラーニングの捉え方が大変よく分かりました」、「学んだアクティブ・ラーニングを学校現場に帰ったときどのように授業化していくか参考になりました」、「今後もこのような活動が継続して行われることを期待しています」などの声が寄せられ、今後の本学におけるFD活動を推進するうえで、有意義な研究会となりました。



受講生へ問いかけを行う新井教授（公開授業）



公開授業の解説を行う新井教授（授業研究会）

兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会（第3回）の実施結果

目 的 このたびの研究会は、本学学生・教職員を対象として、平成26年度授業科目ベストクラスに選定された授業の1つを公開することによって、授業改善のアイデアや手法等の情報を共有し、本学における教員相互の「授業研究」の場として、個々の教員、及び、大学全体の授業改善を推進することを目的とした。

日時・内容 平成27年12月7日（月） 於：教育子午線ホール

①公開授業（授業者：生徒指導実践開発コース 新井 肇 教授）

10:40-12:10 「生徒指導論（進路指導を含む。）」

※学部3年次開講、履修者173名

②授業研究会（司会進行：授業実践開発コース 伊藤 博之 准教授）

12:15-13:00

- ・開会挨拶
- ・授業者より講話
- ・受講生（7名）との意見交換
- ・ベストクラス推薦者による解説
- ・全体討論
- ・本日のまとめ

周 知 方 法

- ・全学生、教職員あてメール通知
- ・本学Webサイト「イベント情報」及び「本学のFD活動」に掲載
- ・学内掲示

参 加 者 数 49名（公開授業参観のみ 5名、 授業研究会のみ 12名、 両方参加 32名）

（内訳）	公開授業参観者数	授業研究会参加者数
大学院生	17（3）	17（4）
学 部 生	0（0）	7（0）
教 員	14（5）	15（6）
事務職員	6（4）	5（4）
計	37（12）	44（14）

備考 ①（ ）内の数字は、学生・教職員FD活動交流会の人数で内数

②授業研究会参加者数には、授業者および受講学生（7名）を含む

第3回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会 アンケート（リアクションシート）集計結果

1. アンケート回答者数

学生 19名 教員 13名 事務職員 0名 合計 32名

【参考：アクティブ・ラーニング研究会への参加者数】

学 生	26名（当該授業科目受講生 7名含む）	
教 員	17名（公開授業者 1名含む）	
事務職員	6名	合計 <u>49名</u>

2. 本研究会の全体の評価について

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	8人	12人	0人
②参考になった	9人	1人	0人
③あまり参考にならなかった	1人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人

3. 公開授業について

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	12人	12人	0人
②参考になった	5人	1人	0人
③あまり参考にならなかった	1人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文ママ）

- ①実際に参観する機会であり，とても参考になった。
- ②これだけの大人数，動きの制限のある会場でも「学び合い」が可能であることに非常に驚いた。最初から無理だと思い込んでいた。（グループワーク等）
- ③先生の間の取り方や，意見をきくタイミングも絶妙でした。内容も素晴らしかったと思います。授業時間は延長してもよいのかと心配していましたが。（12：10までですが，今日は特別でしょうか？）「多様な視点の尊重」というキーワードになったと思います。（最後まで話し合いで）
- ④自殺（死）といじめの関係をきちんとデータで示し，さらにその背景や本質につい

て、先生自身の調査や詳細な取材で冷静な目で解説し、非常に平易な言葉で語りかけるようにしゃべられていて、よく理解できました。また、いじめの痛ましい事案（例）を紹介し、解説することで、なぜいじめ防止対策推進法が必要であるかをよく理解させる授業展開はスムーズで、当事者意識にさせられる授業であった。また、グラフを比較して考えさせたり、いじめの徴候を考えさせてプリントに記入させたり、学生どうしで話し合わせたり、グループワークもありアクティブ・ラーニングの授業であった。ありがとうございました。

- ⑤講義の話の間のとり方、ポイントを押えた内容、学生とのフランクな感じのやりとり。
- ⑥「法によるいじめの定義の課題」のスライドを見ながら、アクティブ・ラーニングの導入の課題にもあてはまると思いました。
 - (1) 学習者の行動（アクション）に偏重する可能性
 - (2) 教師の主観性（思い込み）：（このやり方がアクティブ・ラーニングが成立している）に依拠しがち
 - (3) 教師と学習者とがフラットな関係の中で交叉することがあった方がよい。
 - (4) 「リアクション（受動的反応）」と「レスポンス・アクト（能動的行為）」の区別が不明確
 - (5) 発達段階や学習者の特性を考慮すべき…みたいなことを考えさせられました。
- ⑦具体的にどのようにカウンセリング技術を駆使されていたのか実際拝見できた。学生にどんどん問われている攻めの姿勢に驚いた。
- ⑧特に大人数の授業の進め方を見ることができたこと、そして、基本的には人数よりも、授業づくりの基本的姿勢の問題だと思いました。
- ⑨新井先生の授業力に魅了されました。大人数の授業の難しさをあらためて感じます。
- ⑩学生同士の相談をうまく実施していた。学生が授業中に活動するチャンスを適切に配置している。
- ⑪（授業が重なり公開授業に出ていないので、ベストクラス選定理由書、シラバス、配布教材について）この手の授業（シラバス）の目標（シラバス）にマッチしたやり方はコレなんだと、納得。
- ⑫大規模授業のあり方
- ⑬何を考えていけばいいのかが、しっかり示しながら授業がすすんでいく感じでした。
- ⑭この内容は2回目ですが、内容を改めて学びより考えが深まりました。
- ⑮内容に興味があり、改めて「いじめ」について考えることができました。
- ⑯法的根拠・法の落とし穴・事例・新井先生の方針が明確でした。
- ⑰“授業が上手”の一言につきました。経験にうらうちされた具体的事例は興味深く、膨大なデータを伝える技術、そして人間的な魅力が、教師と生徒の関係性を反映し

ているように思います。

- ⑮とても学びの多い授業でした。選定理由がそのまま感じることもできる授方だったと思います。ありがとうございました。
- ⑯実際に、これまでの授業のとりくみと大きく変えず、学生による意見交流や疑問をそのまま聞ける場だったので、公開授業として大変満足です。
- ⑰自分の知らないことについてたくさん知ることができる。
- ⑱授業の内容がとても充実していて、参観の立場としても勉強になりました。
- ㉒学生への課題提供のタイミング・内容、学生の意見の取り入れ方など参考になりました。
- ㉓学生に考えさせるという意図がよく伝わりました。
- ㉔他の先生方の授業改善につながり、他の授業もより良いものになっていくと思ったから。
- ㉕新井先生の授業は受講したことがあり、今回の授業と比較することができた。①大人数のクラスであっても、他人とのコミュニケーションを通して、意見を述べ合い、自己の考えをより深めていく活動が取り入れられていた。②また、このような活動や問いかけにより自分が教師になった場面を意識して主体的に学習できるように工夫されていた。
- ㉖AL の授業と聞いていたもので、もっとインタラクティブな授業をイメージしていたので期待外れだった。ただ、授業は大変うまくされていたのでその点ではさすがと思った。

4. 授業研究会について

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	8 人	9 人	0 人
②参考になった	6 人	3 人	0 人
③あまり参考にならなかった	0 人	0 人	0 人
④参考にならなかった	0 人	0 人	0 人

上記回答理由、その他意見等 （原文ママ）

- ①授業を見た後に授業者の考え、意図を聞くことができ、確認できた点が良かった。学生も参加している点も良かった。
- ②今年度だけでなく、昨年度の受講生の意見を聞けるのは、よく工夫されている。直後に行くことはよいが、ゆっくり時間がとれないのが残念な点。
- ③司会者は質問のくり返しを語る必要はないと思います。少し司会者が語りすぎ（？）かな、と思います。終わり方はオープン・エンドでよかったと思います。
- ④元現場の教師ならではの実体験や苦労話を含めた新井先生の語りにひき込まれました。

大会場の講義とは思えない授業でした。

- ⑤新井先生による自分の授業に関する解説はなるほどと思いました。学生自身からの意見もこれからの授業づくりの参考になりました。
- ⑥時間が充分なかったのが残念
- ⑦学生が実際にどう考えているかを聞くことができた。
- ⑧授業者としての教員と、受講者の両方から直接話を聞けるのは、大変参考になります。
- ⑨学生さんが参加されていたのがとても良かったです。あのような研修の場を教職員と学生と一緒に組み立てていくことが大学にとって重要だと思います。
- ⑩こーいう会が、理由書、シラバスを読むチャンス。
- ⑪大学における授業研究会の望ましいあり方について吟味する必要があるのではないかな。
- ⑫今後このような研究会が継続して行われることを期待しています。
- ⑬受講生の立場からの生の意見を聞きつつ、意見交換できて貴重な機会でした。
- ⑭新井先生だけでなく、受講者の考えを聴くことができたことが有意義でした。
- ⑮新井先生がどのような意図をもってやっているかがわかり良かった。
- ⑯学部生の生の声と新井先生のお考えをきくことができ大変勉強になりました。
- ⑰学生（授業を受けた）も入って、学生自身の声も聞くことができた点。時間の関係で仕方がないし、今回のスタイルもよいと思うが、授業研究会も少人数のグループで話し合いをして、意見を出し合うのもよいと思われる。
- ⑱自分たちがどのように学んでいきたいか、その要望や思いなどもつたえることができたから。
- ⑲個人的な意見ですが、授業研究会には実習生として参加したことしかなかったので、受講者として発言することは良い経験になりました。
- ⑳学生当事者の話が聞けてよかったです。
- ㉑教員だけでなく、受講生の考えも議論に入っていたので、良かったです。
- ㉒話して下さった学生さん以外の学生さんたち（率直に授業で起きている出来事や反応）の声も聞かせていただきたいです。例えば新井先生の投げかけに対して、あまり関心を抱かない学生もいるのでは？その学生と、どのように学びの場をつくっていくか。

5. アクティブ・ラーニング研究会に関してその他ご意見をご自由にご記入ください。

(原文ママ)

- ①多人数の授業をとりあげてもらえたことが良かった。授業と研究会という内容に満足しています。多人数でも1年生だったらまた違うのだろうか？というギモンあり。
- ②次回の指導要領改訂に深くかかわる問題で、「多様な考え方」を引き出す授業を見る

こと、体験することが、教員にも学生にもとても大切なことだと思う。こういう機会設定、ありがとうございました。

- ③このような授業研究がもっとあるといいと思います。「アクティブ・ラーニングは何か」というところをもっと知りたいと思います。
- ④やはり生徒（学生）に主体的に活動させるとしても、なぜ、どうして、という問い立てがあつてこそ、互いの立場や異なる意見を受け入れ、互いの“知”や“学び”が深まるのだと思う。そういう活動があつてこそ真のアクティブ・ラーニングだと考えます。今回はそれがあつて良い授業でした。
- ⑤昼休みの研究会の設定は不便に感じました。
- ⑥伊藤先生、吉水先生、新井先生お疲れさまでした。新井先生の授業は、ベストクラスに選定されるくらいですが、まさに新井マジックでした。
- ⑦どんどんやりましょう。
- ⑧継続して欲しいと思っています。
- ⑨いろんな形で数回にわけてやるのもいいのかなと思います。忙しいとは思いますが、教員が互いの授業を見学し合つて、授業の質を向上させていくことが必要ではないかと思うので、もっと多くの教員が参加したらいいかと思いました。
- ⑩もう少し時間がとればよかったと思います。
- ⑪“活動ありき”ではなく、身体は活動していなくても、1人1人の思考が活動している今回のアクティブ・ラーニングだったと思いました。ありがとうございました。
- ⑫こうしたアクティブ・ラーニングを小学校現場に帰ったときどう授業化していくかの参考になりました。とにかく教科書の教えるべき内容が多すぎる…。
- ⑬本授業は、受講生の心がアクティブ、頭がアクティブで、非常に中身の濃い学びができるような、展開されていると思います。学生は、短い時間であればあるほど必死に隣の席の人と意見交換していました。大学生なら1分でも十分でこれ位の時間で交流するトレーニングをつむとよいです。
- ⑭新井先生のコメントでALのとらえ方が大変よくわかりました。ありがとうございました。
- ⑮少人数でのアクティブ・ラーニングの講義もみたいと思います。
- ⑯授業のポイントポイントで適切に使用するなら、高校の授業にも利用できると思います。
- ⑰別の授業も見たいと思いました。報告書はHP等で見る事が可能でしょうか？この研究会の成果については、大学の先生方の中で（本日こられていない先生方も含め）交流される機会はあるのでしょうか？

3. 平成27年度「学生による授業評価」実施結果

【前期の実施結果】

1. 実施時期

7月1日～前期科目終了まで

(7月1日以前に授業が終了する場合は、終了の1週間前に調査票を配付し、随時実施)

2. 実施方法

(1) 授業評価調査票によるアンケート調査とする。

(2) 調査票の配付及び回収方法は、次のとおり。

- ・ 授業終了までに、授業担当教員が授業評価調査票を受講生に配付する。
- ・ 調査票の回収は、受講生の代表者が行い、回収用封筒に入れて、その場で封をして教員に渡す。
- ・ 教員が教育支援課教務企画チームへ封筒を提出する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・ この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・ 成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・ 複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。教員ごとの評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。
- ・ 項目⑧「安全への配慮・指導がなされていた。」の回答の有無については教員の指示に従うこと。

3. 調査結果の活用

集計結果については、教員にフィードバックし、授業の内容・方法等の改善に活かすとともに、必要に応じて教員のコメント等を付記し、個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

今年度からの授業評価調査票の記入者欄の改訂に伴い、従来の授業科目毎の集計結果に加えて、当該授業への「出席3分の2以上」をマークした学生の回答を集計し、履修者全員の集計結果と比較できるようにした。

4. 実施結果（最終集計結果）

対象科目数（A）	424
実施科目数	410
未実施科目数（B）	14
未実施科目割合（(B) ÷ (A)）	3.3%

※未実施理由

- ・ 実施を失念していた。または、返却なし。（14科目）
- ・ アンケート調査を配付する前に終了していた。（0科目）

【後期の実施結果】

1. 実施時期

1月8日～後期科目終了まで

(1月8日以前に授業が終了する場合は、終了の1週間前に調査票を配付し、随時実施)

2. 実施方法

(1) 授業評価調査票によるアンケート調査とする。

(2) 調査票の配付及び回収方法は、次のとおり。

- ・ 授業終了までに、授業担当教員が授業評価調査票を受講生に配付する。
- ・ 調査票の回収は、受講生の代表者が行い、回収用封筒に入れて、その場で封をして教員に渡す。
- ・ 教員が教育支援課教務企画チームへ封筒を提出する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・ この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・ 成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・ 複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。教員ごとの評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。
- ・ 項目⑧「安全への配慮・指導がなされていた。」の回答の有無については教員の指示に従うこと。

3. 調査結果の活用

集計結果については、教員にフィードバックし、授業の内容・方法等の改善に活かすとともに、必要に応じて教員のコメント等を付記し、個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

今年度からの授業評価調査票の記入者欄の改訂に伴い、従来の授業科目毎の集計結果に加えて、当該授業への「出席3分の2以上」をマークした学生の回答を集計し、履修者全員の集計結果と比較できるようにした。

4. 実施結果（最終集計結果）

対象科目数（A）	359
実施科目数	344
未実施科目数（B）	15
未実施科目割合（(B) ÷ (A)）	4.1%

※未実施理由

- ・ 実施を失念していた。または、返却なし。（15科目）
- ・ アンケート調査を配付する前に終了していた。（0科目）

H27年度 FD研究会等参加状況一覧

No.	所属	氏名	研究会等名称	日程	主催
1	特別支援教育モデル研究開発室	谷 芳恵	大阪大学主催ワークショップ「学生の内発的な学びを促す方法～演劇ワークショップの技法を用いて～」	2015/5/12(火)	大阪大学教育支援センター
2	教育支援課	中西 光範	甲南大学FDシンポジウム	2015/5/13(水)	甲南大学
3	教育支援課教務企画チーム	廣田由津子	甲南大学FDシンポジウム	2015/5/13(水)	甲南大学
4	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	山中 一英	関西地区FD連絡協議会第8回総会	2015/5/23(土)	関西地区FD連絡協議会
5	教育支援課	藤木 裕一	関西地区FD連絡協議会第8回総会	2015/5/23(土)	関西地区FD連絡協議会
6	特別支援教育モデル研究開発室	小林 祐子	大阪大学主催ワークショップ「90分でマスター！学生の受講態度が変わる、授業をキャリア教育化する10の秘訣」	2015/6/4(木)	大阪大学教育支援センター
7	教育実践高度化専攻 学校経営コース	當山 清実	大阪大学主催セミナー「手軽にアクティブ・ラーニングを授業に取り入れる方法」	2015/6/22(月)	大阪大学教育支援センター
8	教育内容・方法開発専攻 認識形成系教育コース	吉岡 秀文	神戸薬科大学主催「授業の基本ワークショップ」	2015/7/30(木) ～ 2015/7/31(金)	神戸薬科大学
9	教育実践高度化専攻 学校経営コース	當山 清実	平成27年度 ICT利用による教育改善研究発表会「教育の質的転換を目指すICT利用」	2015/8/7(金)	公益社団法人私立大学 情報教育協会
10	事務局	上口 孝之	第5回大学コンソーシアム八王子FD・SDフォーラム「大学改革を支える新しいFD・SD ―ガバナンス改革を教職員成長のトリガーに―」	2015/8/28(金)	大学コンソーシアム八王子
11	教育内容・方法開発専攻 文化表現系教育コース	岡本 信一	平成27年度教育改革ICT戦略大会	2015/9/2(水)	公益社団法人私立大学 情報教育協会
12	教育実践高度化専攻 学校経営コース	安藤 福光	平成27年度教育改革ICT戦略大会	2015/9/2(水)	公益社団法人私立大学 情報教育協会
13	教育内容・方法開発専攻 行動開発系教育コース	島本 好平	神戸大学教育推進機構主催FDセミナー「アクティブ・ラーニングについて考える」	2015/9/7(月)	神戸大学教育推進機構
14	事務局	上口 孝之	国立教育政策研究所プロジェクト 成果報告会「教員養成等の改善に関する調査研究」	2015/9/16(水)	国立教育政策研究所
15	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	淀澤 勝治	第7回帝京大学教職大学院フォーラム「今、なぜアクティブ・ラーニングか」	2015/10/31(土)	帝京大学
16	教育内容・方法開発専攻 行動開発系教育コース	島本 好平	第7回帝京大学教職大学院フォーラム「今、なぜアクティブ・ラーニングか」	2015/10/31(土)	帝京大学
17	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	黒岩 督	第7回帝京大学教職大学院フォーラム「今、なぜアクティブ・ラーニングか」	2015/10/31(土)	帝京大学
18	教育実践高度化専攻 学校経営コース	上田 真弓	平成27年度次世代型教育推進セミナー～アクティブ・ラーニングについて考える～参加	2016/3/16(水)	独立行政法人教員研修センター
19	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	淀澤 勝治	平成27年度次世代型教育推進セミナー～アクティブ・ラーニングについて考える～参加	2016/3/16(水)	独立行政法人教員研修センター
20	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	黒岩 督	平成27年度次世代型教育推進セミナー～アクティブ・ラーニングについて考える～参加	2016/3/16(水)	独立行政法人教員研修センター

平成 27 年度 教職大学院授業改善・FD 委員会 活動実績

教職大学院授業改善・FD 委員会

活動領域	No	活動項目	種類	計画内容	達成基準	評価
1 研修会等 による FD	1	他大学 FD 活動の情報収集	継続	・他大学の FD 協議会や FD シンポジウムから情報収集。	年間 2 回以上	B
	2	教員向け FD セミナーの開催	充実	・専任教員会議での FD 活動取組状況研修 ・e ポートフォリオ活用研修会実施。 ・全学 FD 委員会の活動と連携。(ベストクラス等への参画)	年間 5 回以上。各種活動への参加者のべ 150 人以上。	B
	3	e ポートフォリオの活用促進	充実	・e ポートフォリオの活用した学生との双方向のやり取りの実現。	新入学生に対する研修会実施。	B
2 授 業 評 価 による FD	4	授業評価結果と改善案の学生報告	充実	・授業評価結果と、改善方策を学生に提示。	学生・教員参加 40 名以上。	A
	5	「共通基礎科目」と「専門科目」の授業評価実施 (前期・後期)	継続	・評価ソフトを活用して、「教育課程」「共通基礎科目」「専門科目」について、教員自己評価と学生からの授業評価を実施。	外部評価委員会・教員会議で評価結果報告。担当教員に結果開示。 学生回収率 90%以上。	B
	6	「実習科目」「課題研究」の授業評価実施 (後期)	継続	・評価ソフトを活用して、「実習科目」「課題研究」について、教員自己評価と学生の授業評価、実習校評価の多面評価実施。		B
	7	評価ソフトの改善	継続	・評価ソフトの運用の利便さを目指したシステムの改善。	年度末までに改善完了。	B
	8	修了生に対する教育成果調査の実施	充実	・修了生に対する教育成果調査システムの改訂版を開発・実施。	改訂版による調査を実施。	B
	9	FD 委員会で、学生からの意見聴取	継続	・FD 委員が各コースの学生から、教育課程や授業科目への要望・意見を聴取。	前後期末に実施。	B
	10	実習・課題研究の改善	充実	・実習や課題研究の改善を実施。	学生や実習校の評価結果向上。	B
3 外 の 風 に よる FD	11	教育実践高度化専攻の授業公開	継続	・公開授業やゼミ公開等実施。(年間 2 回) ・実習校との意見交換実施。	5 月、10 月:公開授業。 3 月:連携協力校会合。	B
	12	各種媒体で、教職大学院情報の露出	継続	・新聞や専門誌、また学会等のパネルで、教職大学院情報を積極的に発信。	3 回以上。	B
	13	授業公開の推進	継続	・学外者の授業参観・視察の促進。	外部の授業参観 10 科目以上。	B

(註 1) S : 計画を上回った進捗、A : 計画通り、B : おおむね計画通り、C : 計画を下回った進捗。

(註 2) 上記表中の網掛け部分は、教育課程・授業評価に直接関連する項目。

Ⅲ 資 料

Ⅲ 資料

国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

	(平成16年4月1日規程第17号)
改正	平成17年3月31日
	平成17年9月6日
	平成18年3月8日
	平成18年7月12日
	平成18年12月6日
	平成19年3月14日
	平成20年1月16日
	平成20年3月11日
	平成23年3月14日
	平成24年3月26日
	平成25年4月2日
	平成28年1月13日

(設置)

第1条 国立大学法人兵庫教育大学（以下「本学」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（教育の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。）の推進を図るため、国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長のうち学長が指名した者 1人
- (2) 教育支援（FD）担当の学長特別補佐
- (3) 次のア、イ及びウの区分により各専攻からの推薦に基づき学長が指名した者
 - ア 人間発達教育専攻又は特別支援教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 2人
 - イ 教科教育実践開発専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 3人
 - ウ 教育実践高度化専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 1人
- (4) 学長が指名した者

2 前項第3号及び第4号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。

3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、前条第1項第2号に規定する学長特別補佐をもって充て、副委員長は、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、委員長の職務を代行する。

(所掌事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を企画し、及び実施する。

- (1) FDに係る調査・研究に関すること。
- (2) 教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。
- (3) 教育改善に係る評価に関すること。
- (4) その他FDに関すること。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところに

よる。

(代理出席)

第5条の2 委員会は、第2条第1項第3号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該委員が所属する専攻の教授、准教授、講師又は助教を代理者として出席させることができる。

2 前項の規定により代理者を出席させた場合は、当該代理者を委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会等)

第7条 委員会が必要と認めるときは、専門的な事項を調査検討するため、専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教育研究支援部教育支援課が処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年9月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年7月12日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第2号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第3号及び第4号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず平成24年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月2日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則

1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第3号及び第4号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、学長が定める。

平成 21 年 11 月 6 日
学 長 裁 定
改正 平成 26 年 6 月 2 日

授業公開の実施に関する申合せ

1 授業公開の目的

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定し、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

2 対象授業

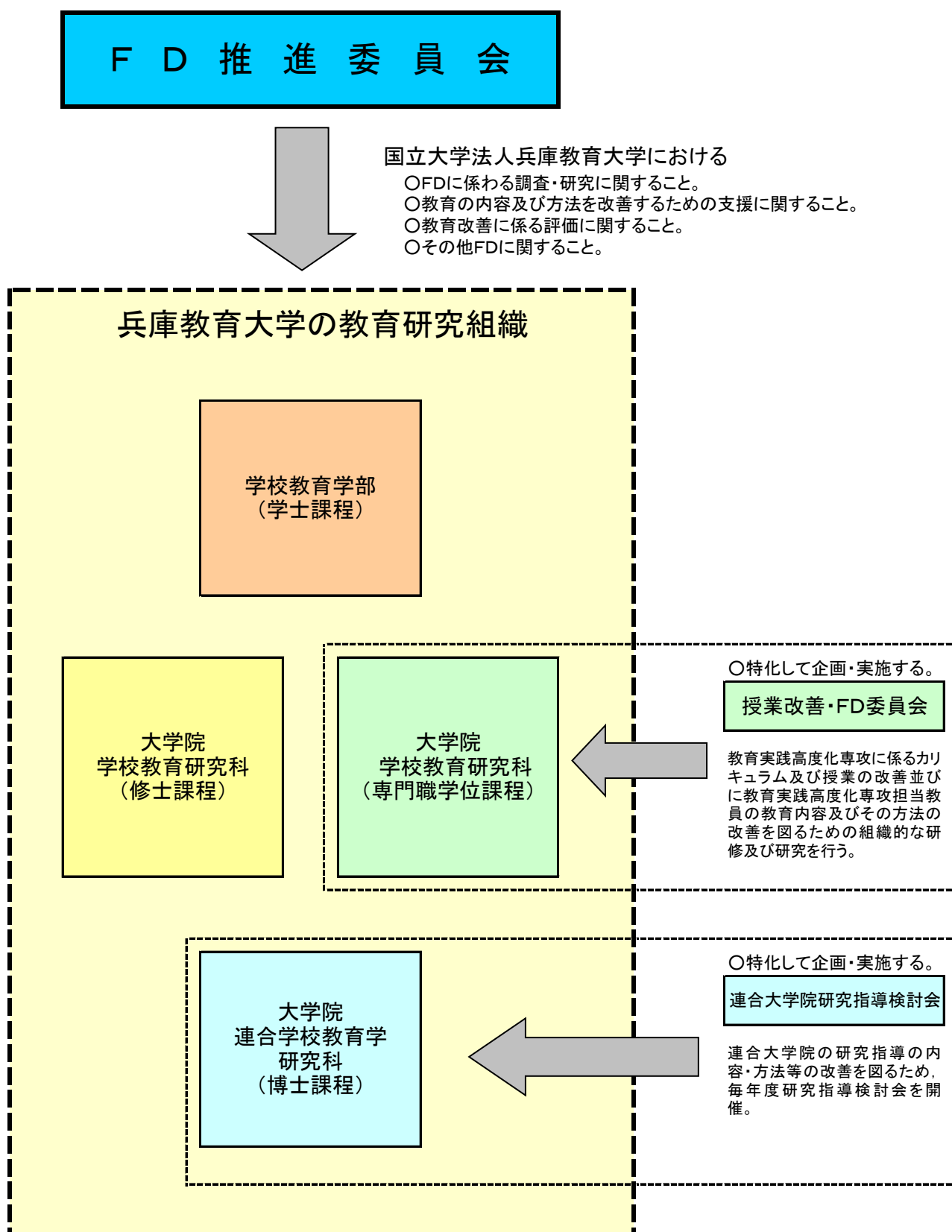
原則として、授業は全面公開とする。ただし、授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業については除外する。

3 公開期間

各教員においては、日常的に「授業研究」を行い、授業の改善に努めているところであるが、このような大学組織としての「授業研究」をさらに推進するため、個々の授業科目において授業公開を行うことができるものとする。その場合、授業公開に参加を希望する教職員は、当該授業担当教員に対し事前に了承を得るものとする。ただし、日常の教育活動を保証するため、次の期間については公開の対象としない。

- (1) 定期試験の期間
- (2) 学期当初の期間（1～2週間）
- (3) 実地教育等に関わる期間

本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図



ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿

平成27年4月1日現在

所 属 等	職 名	氏 名	任 期	備 考
—	副学長	福本 謹一	—	第1号委員
—	学長特別補佐 (教育支援 (FD) 担当)	吉水 裕也	—	委員長 第2号委員
人間発達教育専攻 教育コミュニケーション コース	准教授	宮元 博章	H26.4. 1 ～H28.3.31	第3号委員
特別支援教育専攻 障害科学コース	教 授	鳥越 隆士	H26.4. 1 ～H28.3.31	〃
教育内容・方法開発専攻 認識形成系教育コース	教 授	澁江 靖弘	H26.7. 1 ～H28.3.31	〃
教育内容・方法開発専攻 文化表現系教育コース	准教授	岡本 信一	H26.4. 1 ～H28.3.31	〃
教育内容・方法開発専攻 行動開発系教育コース	教 授	長瀬 久明	H26.4. 1 ～H28.3.31	〃
教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	准教授	伊藤 博之	H26.4. 1 ～H28.3.31	〃
教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	准教授	山中 一英	H26.4. 1 ～H28.3.31	第4号委員